

I

平成26年度「心の教育振興会議」

テーマ

「道德教育の課題とその改善」
～教育活動全体を通じた道德教育の充実～

県「心の教育振興会議」は、県「学校道德教育振興会議」として昭和62年に発足し、平成9年度の改称を経ながら、本県における道德教育の在り方についての議論と検討を重ね、これまで毎年、提言を行ってきました。その提言については、リーフレット等として各学校に配布され、教職員研修や保護者啓発のための参考資料として、また、「道德の時間」の指導資料等として活用されているところです。

本年度は、昨年度の「道德教育の課題とその改善」をテーマとした協議とそこで提示された改善の方向を踏まえて検討を行い、具体的な取組例等を提示することにしました。

本年度の「心の教育振興会議」においては、次の委員の協力を得ています。

(順不同)

假屋園 昭彦	委員	鹿児島大学教育学部	教授
日高 孝	委員	鹿児島市立西田小学校	校長
有村 修次	委員	鹿児島市立福平中学校	校長
迫田 智志	委員	いちき串木野市立旭小学校	教頭
大野 暁	委員	出水市立野田中学校	教頭
牟田 伊織	委員	霧島市立天降川小学校	教諭
寺田 繁樹	委員	肝付町立高山小学校	教諭
山崎 隆洋	委員	鹿児島市立黒神中学校	教諭
篠原 浩司	委員	鹿児島市立伊敷中学校	教諭
西 啓亨	委員	いちき串木野市教育委員会	主幹兼係長
鎌田 広文	委員	阿久根市教育委員会	主幹兼係長
中村 太一	委員	始良市教育委員会	主任主査兼指導主事
新屋 公彦	委員	曾於市教育委員会	指導主事
五反田 新一	委員	与論町教育委員会	参事兼指導主事
川路 道文	委員	県総合教育センター	研究主事

1 道徳教育の充実を図る学校経営

「校長が変われば、学校が変わる」とよく言われますが、道徳教育が重視され、大きく変わろうとする今日、学校全体で道徳教育を充実させるため、校長はどのようにリーダーシップを発揮すればよいのでしょうか。

【ポイント】

- 学校教育目標の基盤である人格の完成は、道徳教育の目標そのものであることを再認識し、学校教育目標の具現化を図り、教育課程に反映させましょう。
- 道徳教育の充実を期して、道徳教育推進教師を中心に、学校の教育活動全体を通じて行う体制づくりに努めましょう。
- 道徳教育との関連を意識して、教育の今日的課題や教育界の話題、動向等についての情報を積極的に発信しましょう。
- 道徳の時間のゲストティーチャーや授業参加など、道徳教育への校長の関わりの機会をつくりましょう。
- 自己評価や学校関係者評価など学校評価における道徳教育の位置付けを再点検するとともに、地域の声を取り入れて地域ぐるみで道徳性の育成を図りましょう。
- 小中連携を生かした道徳教育の取組を一層進めましょう。

1 学校教育目標の具現化と改善

(1) 学校教育目標の具体化の把握と指導

学校教育目標が各学年や各学級の取組にどのように反映され、生かされているか、授業の参観や教職員との面談等を通して把握し、実態に応じて指導助言する。

特に、道徳教育に関わる内容については、学校の道徳教育の重点目標や重点指導内容を踏まえた指導計画の作成や計画に基づく取組がなされているか、その実施状況を把握する。

(2) 児童生徒の実態や教職員、保護者の思いや願いの把握

道徳教育の内容項目に関して、学校として、何が課題であるか、どこを重点化すべきかについて、児童生徒の実態や保護者・教職員の願いを把握し、学校教育目標及び学校の道徳教育の重点目標の再点検・改善に生かす。

実態把握においては、アンケートも有効に活用したい。例えば、調査項目として、道徳教育の各内容項目について児童生徒に自己評価させたり、自己評価を保護者や教職員の評価と比較したりするなど、多面的に実態を分析し、学校としての方針や重点の策定に生かしたい。

2 道徳教育推進教師を中心とした推進体制づくり

- (1) 道徳教育についての経験や意欲、学校の人員配置等を考慮しながら、経験を生かした活躍の場としたり、今後の成長のための経験の場としたりするなど、中・長期的な構想も踏まえつつ、道徳教育推進教師を指名する。

(2) 道徳教育推進教師を、必要に応じて企画委員会や研究推進委員会等に出席させるなど、教育活動全体を通じた道徳教育推進の機会を設けるとともに、推進教師のみに頼るのではなく、全教師が参画する体制づくりを進める。

3 校長による道徳教育充実のための情報発信

道徳教育における「変わるもの、変わらないもの、そして変えてはならないもの」や教育界の動向、施策、効果的な指導法、子どもの成長の姿等について校長としてのメッセージを積極的に発信する

(1) 発信の場の例

- ア 全校朝会等・・・ 全児童生徒，全職員に向けて，みんなで考えてほしいことや生き方に関わる話や学校の教育課題等について発信する。
- イ 学校便り・・・ 全児童生徒，全職員，全保護者，地域住民，関係機関に対して，学校として取り組んでいることの説明や状況の報告などを発信する。
- ウ 研修便り・・・ 全職員に向けて教育情報や校内研修の在り方等について発信する。
- エ 校長メッセージ・・・ 一人一人の児童生徒への声掛けを取り上げ，その子の頑張りや道徳的な輝きに注目させる。

(2) メッセージの例

「美（うるわ）しい心ここにあり」

「4年生女兒からの返信」

春の花の道プロジェクトが終わり，夏の花の道プロジェクトの植え付けが始まっていますね。ところが，体育館前の花壇に誰かが入ったらしく苗が踏みつけられてしまいました。誰も申し出てこないの，とても残念に思っていました。

でもあなたは違っていましたね。朝のチャイムで校舎に入ろうとする私に玄関前の混雑で倒れそうになり，花鉢に手を着いてしまったことを正直に言ってきました。黙って通り過ぎたり，誰かのせいにしてしなかったあなたは，正直で美しい心のもち主です。

お手紙ありがとうございました。

こんなことは初めてでした。鉢に手が付いた瞬間，どうすればよいか困ってしまいました。私はほとんどの人は，踏んだことをだましているのではないかと考えました。

でも，正直に言ってすっきりさせようと思いました。そしたら，おこられると思っていたのに逆にほめられてうれしくなりました。心が温かくなりました。私は，言わないより言った方がよかったのだなあと思いました。

【学校だよりの例】

… 10月には中央教育審議会において「道徳の教科化」の答申がなされました。また小学校英語教科化や土曜授業も話題にされています。これらは，これからの子どもたちが成人して社会で活躍する頃には，生産年齢人口の減少，グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により社会構造や雇用環境の大きな変化，職業の在り方の様変わりなど，厳しい挑戦の時代を迎えることが予想されるからです。道徳や小学校英語を教科にすることは，まさに時代の要求に応える流行の部分であると思います。時代と共に変わっていく教育の姿でありましょう。一方，道徳を教科化することで，「道徳教育の本質である人間尊重の精神や生命尊重，自主自立，不撓不屈，礼儀作法，信頼・友情，公德心，思いやり・親切などの変わらない，変えてはならない価値をもっと重視して，子どもたち一人一人にしっかり身に付けさせましょう。」ということにほかなりません。…「教科化」という方法を変えることで，変わらない，変えてはならない人間としての心の在り方や人と人との接し方を，もっと大事にするということだと思えます。…

4 校長の道徳教育への積極的参加

(1) 集会等での校長講話

みんなが一人一人のよさを伸ばし、明るく元気で生活するために、楽しい学校生活づくりを学校経営の視点で、全校児童生徒に語りかける。(いじめ撲滅、支え合う学校・仲間、元気なあいさつ日本一、自由と責任、いのちのつながり、あなたの存在など)

(2) 道徳の時間への参加

意図的・計画的に学級担任と打ち合わせて、説話やゲストティーチャーとして参加する。

【校長がゲストティーチャーとして参加した後の6年生の感想文】

「道徳」
二時間目に道徳がありました。委員会の仕事についての心変わりの話でした。その後、校長先生のお話がありました。先生は最高学年について熱く語って下さいました。私は、校長先生のお話を聞いて、自分に「最高学年」として何が足りていないのか考えました。それは積極性だと思います。自分でも少々引っ込み思案だと思っていますからです。
直せるようにがんばろうと思います。

5 学校評価を活用したPDCAサイクルによる評価と改善

(1) 自己評価

教職員による自己評価においては、道徳の時間に関する評価だけでなく、教育活動全体を通じて行う道徳教育という視点での評価項目が含まれているか再点検したい。

推進体制や活動の状況、家庭や地域との連携等、道徳教育の全体計画を踏まえた評価項目としていく必要がある。

(2) 関係者評価等

家庭・地域と連携して道徳教育の充実を図るためにも、道徳教育に関する保護者や地域住民の評価を積極的に取り入れたい。

学期毎等のアンケートのほか、道徳の授業公開（授業参観）の機会を捉えたアンケートも活用したい。この際、項目等が保護者等が分かりやすい記述となるよう工夫したい。

(3) 児童生徒による評価

児童生徒の授業アンケートにおいて、道徳の時間を取り上げた評価項目を教科学習とは別に設定することも有効な方法である。

保護者各位

道徳に関するアンケート

保護者氏名 _____

春暖の候、保護者の皆さんはどのようなお過ごしでしょうか。今年度、本校では生徒の実態や保護者の要望などを生かした道徳教育の充実を図っていきたくと考えております。そのために保護者を対象に下記のようなアンケートを実施しますのでご協力をお願いします。

記

(1) 下の表は、中学校で学習する道徳の内容項目の24つを表したものです。目下この表が子の様子から十分に行っていると感じている項目と今後の課題だと感じている項目をそれぞれ選び、記入をお願いします。

○…十分身についている △…今後の課題
どちらでもない場合は空欄

番号	中学校の「道徳」の授業で学習する24の内容		○か△か空欄の記入欄
自分自身に関すること	1	望ましい生活習慣、節度、節制	望ましい生活習慣を身に付け調和のある生活をする
	2	希望、勇気、強い意志	目標や希望に向かい勇気をもって生き抜く
	3	自主・自立、誠実、責任	何事も自分で判断し決定し実行し責任をもつ
	4	真摯愛、理想の実現	真理・真実・理想を求め自分の人生を切り拓く
	5	向上心、個性の伸長、充実した生き方	自分のよさを見つめ個性を伸ばしていく
他の人との関わり	6	礼儀	礼儀の意義を理解しその場に応じた言動をとる
	7	人間愛、思いやり	思いやりの心をもつ
	8	信頼・友情	理解し高めあえる友達に出会う
	9	男女の敬愛	異性を正しく理解して相手の人格を尊重する
	10	自他の尊重、謙虚、寛容の心	個性や立場を尊重して他の人から学ぶ姿勢をはくむ
	11	感謝	善意や支えに気づきそれにこたえようとする
	12	生命尊重	かけがえのない生命を尊重する
自然や芸術などの学び	13	自然愛、畏敬の念	自然や美を愛し人間の力を超えたものへの畏敬の念を深める
	14	人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び	人間として誇りをもって生きていく喜びを味わう
	15	法やまじの遵守、権利と義務、社会の秩序と規律	法やまじの意義を理解し社会の秩序と規律を高める
	16	公徳心、社会連帯、よりよい社会の実現	よりよい社会の実現のために公徳心・社会連帯の自覚を高める
集団や社会との関わり	17	正義、公正・公平、差別や偏見のない社会の実現	公正・公平で差別や偏見のない社会の実現を目指す
	18	集団生活の向上、役割と責任	役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める
	19	勤労の尊さ、奉仕、公共の福祉	勤労の尊さを理解し皆の幸福や社会の発展に努める
	20	家族愛	家族の大切さを再認識しその一員であることを自覚する
	21	愛校心	学校を愛しよりよい校風をつくる
	22	郷土愛	地域社会の一員として郷土を愛しその発展に寄与する
	23	日本人としての自覚、文化の継承と創造	日本を愛し優れた伝統の継承と新しい文化を創造する
	24	国際理解、人間愛	他の国の人々や異なる文化を理解し世界平和の実現を目指す

(2) 今までの保護者自身の経験や黒神の子どもの様子から、これからの道徳教育の中で、特に重点的に学習してほしい項目を上表から5つ選び番号を記入して下さい。

※ 4月17日(水)までに、封筒に入れて生徒便で提出をお願いします。